# 港湾メーデー開催

## 横浜港メーデー

初夏を感じさせる日差しの下、第二十四回横浜港メーデーを赤レンガ倉庫前広場にて開催した。

組合員・家族を含め、約六二〇名強の参加者のなか、渡辺副委員長の開会宣言・司会進行より始まり、主催者を代表して、東海執行委員長より、伝統あるメーデーの始まりについて、国が推し進めている増税の押し付け・大企業への減税・民意そっちのけの安倍政権に反対して大きく声をあげていくなどの挨拶がされた。

また、来賓として全国港湾糸谷中央執行委員長をはじめ、かながわ労働センター長・横浜市港湾局長など様々な方々から激励の挨拶を頂いた。

続いて、港湾メーデー宣言（案）を採択し、三体の構成によるデモ行進で、赤レンガプラットホーム前～客船ターミナル入口～万国橋～海岸通り～神奈川県警本部前～開港記念広場～山下公園～山下ふ頭内まで、シュプレヒコールを声高らかに行進した。

また、当日は休日ともかさなり、一般市民にも港湾メーデーの団結をアピールできたことも含め、横浜港湾メーデーを成功裡に終ることが出来た。

## 大阪港海上メーデー

二〇一六年大阪港海上メーデーを三単組合同（大港労組・日検労大阪支部・海事検定大阪）で、総勢一〇〇名規模で開催しました。

大阪港湾労働者福祉センター前で決起集会を行い、その後、乗船場まで約十五分行進して、参加者全員が船に乗船し、コンテナバース・ライナーバース・フェリーターミナルなど約一時間かけて海上パレードを行いました。

（大港労組　佐藤書記長）

# 藤木インスペクター日誌
## ～五〇ドルの象牙～

先日に訪船した時の話です。その本船は、ITF協約を持っています。

本船事務所に入るとチーフ・オフィサーが、話しかけてきました。このチーフ・オフィサーが結構なおしゃべりで何をしゃべっているのか自分の能力ではわからない時がありました。

そのうちに船長が現われてあいさつをして自分が必要とする書類のコピーをお願いしました。

その間もそのチーフ・オフィサーは、船長そっちのけで話しかけてきました。

最終的に書類のチェックを何とか終えたときにそのチーフ・オフィサーのある話を聞いていました。

ある時にスエズ運河を通り、おそらくエジプトに停泊していた時の話だと思います。

エジプト人が、象牙を売りに来たそうです。

最初は、千ドルと言っていたのが、どんどん値が下がり、二百ドルとなり、最終的には、五〇ドルになったそうです。（私はやけに安いな～）と思っていました。

すると、もう一人買った人がいて部屋に飾っていたそうです。

そして二、三週間たったときにその人は、象牙にヒビが入っているのを発見したそうです。

その人は、チーフ・オフィサーに「君のは、どうなっている?」と聞かれ、しまっていた象牙を見たところ、やはりヒビが入っていたそうです。そこでチーフ・オフィサーは、その象牙をよく調べてみると、チョークのような素材で作った偽物だったそうです。

チーフ・オフィサーは、エジプト人は、偽物をつくるのがうまいよね～と逆に感心していました。

私は、話を聞くのも飽きてきたので「今日は、いい話を聞いた、機関誌にその話を載せるよ」と言い放ち、即、下船したのでした。

## ～辺野古新基地建設をどう考えるのか～①

今号から沖縄県名護市の「辺野古新基地建設をどう考えるのか」と題する特集です。

全国港湾は、三月初めに激励行動として沖縄を訪問し、翁長知事と面談しました。

知事は、辺野古新基地建設の問題を「全国民が日本の地方自治の問題、民主主義の問題として」とらえる必要を訴えました。

辺野古新基地建設問題をどのように考えれば良いのか、ともに考えてみましょう。

はじめに、名護市辺野古にはどんな基地が造られようとしているのでしょうか。

沖縄県は、三六三の島でなっており、東西約一〇〇〇㎞、南北約四〇〇㎞の県域を持ち、総面積は東京都とほぼ同じで日本で四四番目の大きさです。人口は、約一四〇万人で滋賀県とほぼ同じで二五番目となっています。

沖縄本島の中・南部は、那覇市や沖縄市などを中心に人口が集中して、県人口の約八割、一一〇万人以上居住し、中南部都市圏の人口密度は政令指定都市並みとなっています。

そして、日本にある米軍専用施設の七五％が沖縄に集中し、占有面積では沖縄本島の約二割を占めています。

名護市は、沖縄本島北部に位置し、本島の約一七％の面積を占めて西海岸側と東海岸側の両方に海岸線をもっています。沿岸は海草藻場となっており、絶滅危惧種のジュゴンなどが生息し、生物学的に貴重な地域になっています。

普天間基地の代替施設とされる辺野古新基地建設予定地は、大浦湾北部に面した海面を埋め立てた一六〇ha（東京ドーム約三〇個分）の用地に造られようとしています。

新基地計画では、V字型に一八〇〇メートルの滑走路二本を持ち、二七〇メートルの岸壁を備えて三万トン級の艦船の着岸が可能となり、ヘリパッド（着陸帯）や弾薬庫など多くの機能を兼ね備えています。移設費用はすべて日本側の負担（税金）で、耐用年数は二〇〇年とされています。

新基地建設に必要な埋め立て土砂量は二一〇〇万㎥（一〇tトラック三五〇万台）となり、その内、約八割は県外から搬入され、三割強は門司地区（山口県含む）からの採取となります。このような海・山の破壊に加え、有害物質による広い海域の汚染が予測され、地域住民には墜落の不安と爆音被害をもたらすことになります。

次回は、普天間飛行場の閉鎖、撤去問題の経緯を考えてみましょう。